

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201328
法人名	社会福祉法人 大島福祉会
事業所名	あしょかの里
所在地	愛媛県今治市吉海町仁江262-1
自己評価作成日	H28年1月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

多数のボランティアの受け入れを行い、共に楽しむ時間を持つことが出来るようにしています。入所者の方には、家事等の役割を持っていただきながら、生きがい作りの支援を行っています。入所者と職員が共に助け合い、笑顔で楽しく暮らしていきたいと思っています。入所者の方や家族の方がここで暮らして良かったと思えるように日々心がけて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

早朝足元がふらつくような時には車いすを使用するようなこともあるが、ご自分の足で立つこと、歩くことができるような支援に力を入れて取り組んでいる。病院で歩行が難しいと言われたような利用者も、職員とマンツーマンで歩行練習をして、ご自分の足で歩けるようになってきているケースがある。利用者の誕生日会は、1ヶ月毎に合わせて行っており、ご家族を招待して一緒にお祝いしている。小・中学生の福祉体験の際に、利用者を代表して男性利用者の方が挨拶をしている。

献立は、1週間毎に職員が交代で立てている。食材は、毎日近くのスーパーに買い物に行っており、利用者も一緒に出かけられるよう支援している。調理が好き、食べることが好きな利用者があり、さらに食欲が増すように、時々ホットプレート等を使って調理している。食卓テーブルから菜園の様子が近くに見え、職員は昼食に使用した大根も、菜園で採れたものを使用したことを利用者話していた。食事時、職員は、利用者に味の具合を聞いたりしながら一緒に同じものを食べていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームあしよかの里

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

村上鈴美

評価完了日

H28 年 1 月 5 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「地域との絆を大切に、笑顔あふれる自由で尊厳ある暮らし」の理念を掲げ、利用者の方主体の自由で楽しい暮らしを実現したいと考えています。毎朝、申し送りの後、理念を唱和し仕事を始めています。	
			(外部評価) 事業所理念とともに、毎月の目標、職員個々の目標を居間に掲示している。法人全体で「笑顔で楽しく暮らせる場所宣言 毎日笑顔であいさつし、スキンシップをとりましょう」と目標を立てており、利用者の笑顔を引き出せるような取り組みをすすめている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事への参加やボランティアの受け入れを積極的に行い、地域の方との交流を図っている。外出した時には、地域の方が気軽に声をかけて下さる。以前より、外出の機会が少なくなってきた。	
			(外部評価) 近所の方は、運営推進会議にも参加し、事業所のことをよく知ってくれており、利用者が外に出ているのを見かけた際には教えてくれる。絵手紙、御詠歌、習字、出前喫茶、念仏、法話等、地域のボランティアの訪問が定期的であり、利用者の楽しみとなっている。管理者は、今後、笑いヨガや3B体操等も採り入れたいと話していた。地域の文化祭には毎年参加しており、今年は、利用者個別の作品に加え、みなで協力して作製した干支のさるの貼り絵を出展した。今年初めて、中学生の職場体験を1名受け入れた。生徒は、2日間の日程で、食事やおやつ作りを利用者と一緒に行いながら介護体験をした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎年、小学校と中学校の福祉体験学習の受け入れを行っている。今年初めて、中学生の職場体験学習の受け入れを行った。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を2カ月ごとに開催し、運営状況や行事予定の報告、あしよかの里便りの発行をしている。会には、毎回、入所者の方も参加し、皆様の元気な様子を見て頂く。 運営推進会議で出た意見については、全職員で話し合いを行いサービス向上に努めている。	
			(外部評価) 会議には、自治会長や民生委員、近所の方、ボランティアの方等が参加している。会議日には、午前中に利用者とおやつを作り、会議時に振る舞っている。ご家族全員に会議案内をしており、多い時には8名程の参加がある。今治市のGH交流会時の情報を得て、事故やヒヤリ・ハット報告を毎回行っている。3月の会議では、ご家族や地域の方が参加した避難訓練時のビデオを上映し、意見交換を行った。管理者は今後、事業所の有用性を活かし、食中毒の対応や認知症の勉強会等、参加者に有益な内容をテーマに挙げ、勉強するような機会を作りたいと話していた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自己評価 わからない事、疑問に感じたことを、気軽に相談し、アドバイスや協力をお願いしている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの方からポータブルトイレの利用について質問があり、利用している4名の方の利用理由を報告した。「市内でどのグループホームを利用しても良いように」という目的のもと、今治市内グループホーム交流会が2年前に発足しており、年6回偶数月に開催している。職員も順に参加して情報交換している。又、各事業所から希望を聞き、年間計画を立て勉強する時間がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 家族さんと話し合いを行い、夜間帯には、玄関の施錠を行っている。 身体拘束のないケアについて話しあい取り組んでいる。	
			(外部評価) 帰りたい気持ちが強く、ひとりで出かけていく方もあったため、敷地内の階段につながるフェンスは、内からはロックを掛け、出入り時に職員が開錠している。「ご家族からは玄関を施錠してはどうか」と意見もあったが、外に出たいような利用者もあるため、「日中は玄関に施錠はしない」ことを、家族会や運営推進会議等で説明した。利用者がひとりで玄関を出るような時には、止めることなく「行ってらっしゃい」と見送り、戻って来た時には「お帰りなさい」と声をかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員間で研修にて学んだことを話し合い、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 活用する機会がない為、職員間でも学ぶ事が出来ていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族さんの疑問点には、説明を行い、理解、納得をしていただけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入所者、家族の意見や要望は、日常生活の会話や面会時に聞いたり、家族会や運営推進会議で出してもらうようにしている。要望については、職員間で話し合いを行い、運営に反映させるようにしている。 (外部評価) 年1回、6月に「家族会」を開催しており、7～8名のご家族の参加がある。又、職員は全員が参加している。家族会は、午後から行っており、一緒におやつを食べながら担当職員とゆっくりお話をする機会となっている。又、アンケートをその場で記入してもらい話し合っている。利用者の状態を踏まえて外出先等についても話し合っており、ご家族の意見等も聞きながら島外で外食したようなこともあった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月2回のミーティングを行い、積極的に意見交換をし、実践に努めるようにしている。	
			(外部評価)	
			職員それぞれに好きな色のスマイルTシャツを着用して、笑顔で対応することを心がけている。外出した時等には、職員同士で居場所を把握することにも役立っているようだ。7月から職員全員が8時間勤務になったことを機に、個々に個人目標を立て、又、掃除の徹底にも取り組んでいる。さらに、今後は、散歩できるような機会作り等、個別の細やかな支援の実践に時間を使いたいと話していた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			今年から全職員が8時間勤務となり、8時間勤務に向けての思いを作文にもらった。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			地域密着型サービス協会やその他の研修会に参加し、毎月のミーティングで研修報告を行っている。今治GH交流会が設けられ、年間で、職員が全員参加するようにしている。より一層スキルアップするように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			今治GH交流会があり、他ホームの職員の意見を聞き、サービスの向上に取り組んでいる。毎年、他の事業所でのマンドリンコンサートに出かけたり、今年は他のホームの夏祭りにも参加した。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用前に利用者に会い、話をしたり、ホームを見学してもらうなどして少しでも不安をなくすように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前訪問したり、ホームを見学してもらう機会を持ち、家族の話を時間をかけて聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族のニーズに応じるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として尊重し、いろいろな事を教えて頂きながら支え合う関係を築いていくようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入所者の方の日常生活を知って頂く為、運営推進会議の時に発行しているお便りと運営状況報告書と年2回、個別のお便りを家族に渡している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) デイサービスとの交流、島四国、小学校の運動会等の行事に参加し、地域の方との交流の場を持つように心がけている。 家族、知人の面会もお願いしている。 天気の良い時には、職員と買い物に行っている。	
			(外部評価) 利用者が、ご家族に暑中見舞いや年賀状を出すことができるよう支援している。利用者は全員島内から入居しており、ご自宅がある地区の敬老会に参加できるよう支援している。帰りたい気持ちが強い利用者の方は、月2回程度ご家族の協力のもとご自宅に戻り、泊まる機会を作っている。併設デイサービスに知り合いが通っているような方もあり、交流できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) テーブルの座席を工夫している。洗濯物畳み・干し、掃除、調理等楽しく出来るように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も入院している方には、見舞いを継続した。家族の相談に応じて、支援を行った。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中から本人の希望や意向の把握に努めてはいるが、困難な事是对応できていない。 (外部評価) 私の気持ちシート、センター方式のアセスメント様式を使って、利用者個々の意向の把握に努めている。介護計画作成前には、日常生活動作や現況についてまとめ、職員で課題を話し合っている。看取り支援については、ご家族によっては「職員さんに申し訳ない」と話したり、ご本人は「無理やけんね」「考えたこともない」と話す方もいるようだ。管理者は今後、自然な会話の中で、ご本人の気持ちを探っていくよう取り組みたいと話していた。	思いや意向を表しにくい方の情報収集についても工夫してみたい。利用者主体の暮らしを支援していくためにも、利用者のこれまでの暮らしを知るための取り組みをすすめてほしい。さらに、重度化した場合や看取り支援の希望についても探してほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前訪問で本人、家族から話を聞くが、入所後も本人、家族との会話からの情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の状況の把握し、その人の能力が発揮できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			介護計画作成は、家族や本人の要望を聞き、各担当者が計画作成担当者の指導を受け作成している。モニタリングは、職員間の申し送り内で行われている。	
			(外部評価)	
			管理者がご家族と話し合い、介護計画を作成している。アセスメントは6ヶ月毎に更新し、介護計画の見直しにつなげている。	さらに、利用者個々の情報をもとにして、ご家族との協働や地域資源の活用等を取り入れながら、その人ならではの暮らしが継続できるような介護計画となるよう工夫してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			業務日誌、介護記録、個別ノート等で情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			かかりつけ医への受診援助や希望時の外出援助等、柔軟に対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			ボランティアの方々の訪問を受けたり、地域の行事には参加して楽しい暮らしが出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>入所者全員、嘱託医がかかりつけ医となり信頼関係が築かれている。毎週往診があり、必要時にはいつでも連絡が取れる体制が出来ている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>島内の協力医は、週3回往診のために事業所を訪れており、その都度相談等している。年1回は、利用者全員が健康診断を受けられるよう支援しており、健康状態に応じて塩分やカロリー摂取に気を付けている。健康状態や尿、便の状態をチェックし、利用者個々の変化に気付くよう取り組んでおり、浴室の壁面には、薬やむくみの状態の写真、排泄チェック表を貼り、職員がひと目で利用者の状態を把握できるよう工夫している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>協力医療機関や特養の看護職員との連携を取り健康管理に努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>医療機関と連携を取り、退院に向けての相談を行っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>医療機関と連携を取り、退院に向けての相談を行っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>終末期の利用者の時、協力医療機関との連携を密にし、家族との話し合いをしながら対応するようにしている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>終末期の利用者の時、協力医療機関との連携を密にし、家族との話し合いをしながら対応するようにしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>これまで看取りの事例はない。事業所では、「歩行困難」が退去の条件になっている。100歳を超える利用者もあり、又、全体的に90歳を超える利用者が多く、終末期の支援については家族会時に、点滴等の医療行為が発生する場合は、ご家族の協力が必要なことや、又、費用が発生する場面があることを説明している。市内グループホーム交流会時に意見を聞き、重度化の指針を作成した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修会で学習し職員間で勉強はしているが、訓練は行われてはいない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は定期的には行っているが、地震、水害時の避難方法は、今後きちんとした話し合いが必要である。地域の方の参加で避難訓練を行った。居室の入口の戸に、避難時の持ち物を絵で表示している。	
			(外部評価) 歩行に介助が必要な利用者の居室の扉には、大きく車いすマークを表示している。又、耳が聞こえにくい方には、耳のマークを表示している。救急通報装置がある場所に、見取り図と利用者個々の居室の場所、状態を示した表を吊るしていた。消防署の方等からの意見もあり、避難経路は舗装していた。その後避難訓練を行ったが、利用者の状態変化の理由もあり、以前より避難に時間がかかったようだ。事業所独自でも2ヶ月ごとに避難訓練を行っている。昨年12月の愛媛全域災害訓練時には、事業所では、机の下に隠れる安全確保行動シェイクアウトを試した。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人1人の尊厳の保持を重視して、日常生活を支援するように心がけている。受容と共感の心を大切にしている。馴れ合いの声掛けになる事がある。	
			(外部評価) 早朝足元がふらつくような時には車いすを使用するようなこともあるが、ご自分の足で立つこと、歩くことができるような支援に力を入れて取り組んでいる。病院で歩行が難しいと言われたような利用者も、職員とマンツーマンで歩行練習をして、ご自分の足で歩けるようになっていくケースがある。利用者の誕生日会は、1ヶ月毎に合わせて行っており、ご家族を招待して一緒にお祝いしている。小・中学生の福祉体験の際に、利用者を代表して男性利用者の方が挨拶をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 希望や思いを聞くようにし、自己決定できる場を設けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先することがあるが、出来るだけ本人の希望を大切にしながら支援を行うようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的な散髪や洋服選び等の支援を行っている。お化粧品をして出かける事もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入所者さんがテーブル拭き、煮干しの頭や腹わた取り、お茶の葉パック入れ、食材切、食器拭きをして下さる。各自の下膳をお願いしている。調理や食器洗いは、職員と一緒にしている。食べたい献立を取り入れる様にし職員も一緒に食事を楽しんでいる。食事中には音楽を流している。	
			(外部評価) 献立は、1週間毎に職員が交代で立てている。食材は、毎日近くのスーパーに買い物に行っており、利用者も一緒に出かけられるよう支援している。調理が好き、食べるのが好きな利用者があり、さらに食欲が増すように、時々ホットプレート等を使って調理している。食卓テーブルから菜園の様子が近くに見え、職員は昼食に使用した大根も、菜園で採れたものを使用したことを利用者に話していた。食事時、職員は、利用者に味の具合を聞いたりしながら一緒に同じものを食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養のバランスを考えて献立を作り、食事量、水分量を記録している。毎週体重測定を行なっている。1日の水分量が決まっている人には、摂取量を計量し、出している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声掛けをし、一人ひとりに応じた介助を行っている。毎晩、義歯の洗浄も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレ誘導を行い、出来るだけ失禁のないように支援している。 排便コントロールがうまくいくように支援している。	
			(外部評価) 日中は全員トイレで排泄できるよう支援している。トイレの扉それぞれに番号を貼っており、トイレ誘導時には、「何番を使いましょう」と言ってそのトイレを目標にして歩き、ご自分の力でトイレを使用できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維の多い食材を考え水分補給を心掛けている。 リハビリ体操やレクリエーションや腹部マッサージをして出来るだけ体を動かすようにしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入所者の方の希望を聞いたり、職員間で話をした結果、午前入浴にしている。体調やその日の気分を考えながら支援をしているが、個々に応じた支援は難しい。	
			(外部評価) 入浴は2日に1回を目安にしており、午後から活動するような時間を設けていることから、現在は、午前中が入浴時間になっている。お風呂が好きな方は連日入浴する方もある。浴槽には、可動式の手すりを取り付けており、個々の状態に応じて使用しながら全員が湯船で温まれるように支援している。冬至にはゆず湯を楽しむよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ひとりひとりの生活習慣を大切にし、自由に休息を取れるように支援している。こたつや和室でくつろぐ方もいる。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方内容をまとめていて、必要時には確認が出来るようにしている。個々の薬の用量、目的を個人のファイルにとじている。薬副作用等について理解は十分に出来ていない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 掃除や洗濯ものを干したり畳んだり、調理等出来る家事を毎日の日課として行っている。買い物、ドライブ等の外出の機会を作り、楽しみ作りの支援をしているが、以前より減ってきている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は、ドライブ等外出する機会を作っている。又、自宅への外出、外泊等している。畑に出かける事もある。	
			(外部評価) 利用者の状態変化により、行き先や楽しみ方を工夫しながら全員で外出を楽しめるように支援している。今年の花見は島外に出かけ、蒼社川から玉川ダムまでドライブしながら桜を楽しみ、外食して帰った。初詣は、地域の神社でお参りをした後、車窓から島内の神社に手を合わせた。毎年楽しみにしているへんろ市は、歩行や乗り降りが負担にならないよう工夫しながら、5ヶ所の札所をお参りした。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望で持っている人もいる。殆どの人は職員が管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 何時でも自由に電話ができるようになってる。暑中見舞いや年賀状は毎年全員が書いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室から外の景色や菜園が見え、外を眺めながら自然にふれ、季節感を楽しむことが出来る。季節の花を飾ったり、日差しが強い時期には日よけネットを利用して光を和らげたりしている。利用者の習字絵手紙の作品を掲示している。毎朝の掃除の時には、換気を行っている。日差しの強い時にはカーテンで調節したり、温度調整もこまめに行うように気配りに心掛けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間の窓は、カーテンを開けており、国道を走る車や庭、菜園の様子がよく見える。菜園は、シルバー人材センターの方達が世話をしてくれている。壁面には、絵手紙や習字等、利用者の作品や利用者や職員の紹介を掲示しており、来訪者にも事業所全体の様子が分かりやすいようになっている。毎日、午前・午後に次亜塩素酸ナトリウム溶液で床、手すり、台所を拭き、洗面台の足元にもマットを敷き、感染症対策に取り組んでいる。又、運営推進会議時や行事等には来訪者が使用できるよう、ペーパータオルを設置している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間には畳みがあり、畳の間で洗濯物を畳んだり、会話をしたりしている。横になりくつろいだり、炬燵で休んだりしている。必要時には、テーブルの配置換えをし、座席を考えている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室にはテレビやタンス、その他好みの物を置いている。位牌を置いている方や好きな花を飾っている方もいる。時計、カレンダーを飾っている方もいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>お花の好きな利用者には、ご家族がシクラメンの鉢や花瓶に生花を活けて、お花が途切れないようにしてくれている。日めくりの暦が使いやすい方には、職員が用意していた。メガネやメモ帳、ペンを使い勝手の良いように箱に入れ、枕元に置いている方もいる。引き出しの上に洋服を並べ、着替えをご自分で管理している方やご自宅からソファを持ち込んだり、テレビを置いて見る方もある。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレ①②③や浴室、居室はわかりやすい表示をしている。混乱や失敗が生じた時には、優しい言葉かけを笑顔で行うように心がけている。 タンスにラベルを貼り、洗濯物を片付けやすいようにしている。</p>	